

## ．女性保健部

産婦人科医は出産を扱うのみならず、女性の疾病を扱うことはいうまでもない。当部では、産婦人科医を女性の一生にわたる生涯医療を担う専門医と捉えているが、当然、健康に関わる女性特有の問題は各年代毎にも異なるため、女性の各ライフステージに生ずる問題点を各年度毎にいくつずつ抽出（除、周産期とがん関係）し、その対策を検討している。具体的には、小委員会で専門的な立場から検討し、ついで全体委員会で、女性の全ライフステージと産婦人科医療の一般的な視点から検討した後、その成果を逐次会員並びに社会に還元している。

この方法は、平成9年度に地域保健医療部（女性保健医療：女性保健）が発足し、平成11年度に女性保健部（予防医学・介護）へ、そして平成15年度に当「女性保健部」へと名称は変わっても受け継がれ、今日を迎えている。

以上の事業スタンスと経緯のもとに、本年度は、思春期では性教育指導セミナーと性教育講演用スライドの見直し、性成熟期では小冊子“すこやかな月経のために”の発刊、「卵胞ホルモン製剤」に関する能書改訂への対応、更年期ではいわゆる“女性専門外来”に関する調査表立案、「生活習慣病マニュアル」作成準備、老年期では介護保健施設における高齢婦人科疾患に関する調査実施、「産婦人科医のための介護保険マニュアル」作成準備を柱に、以下の事業を展開した。

### 1．委員会・小委員会活動

効率的な検討と担当者間の円滑な協議を図るため、女性のライフサイクルを3つに分けた小委員会を委員会内に設置して、それぞれにおける特有の問題を以下のとおり検討した（：小委員長、Ad：アドバイザー、[ ]：担当幹事）。

（1）思春期・成熟期小委員会： 北村・秋元・山本・古賀委員、成田Ad、[安達]

性教育、性感染症、OC、不妊・避妊相談における特有な問題等を担当して活動した。

性教育講演用スライド・CD-ROM・解説書（各支部配布：平成14年度）の見直し

性教育指導セミナー開催及び次年度セミナー開催の支援

日医「学校における性教育4科連携モデル事業（仮称）」への協力支援

小冊子「すこやかな月経のために」の発刊

（2）更年期小委員会： 相良・水沼・進士・野崎・山本・古賀委員、[赤松]

生活習慣病と中高年女性のヘルスケア、女性専門外来などを担当して対応を図った。

「生活習慣病マニュアル」作成準備

低用量OCの啓発（ホームページ“Female Health.net”）とホルモン剤（HRT）に関する能書改訂への対応

女性専門外来に関するアンケート調査の準備

（3）介護保険小委員会： 松本・進士・古賀委員、加藤Ad、[清水]

介護保険制度見直し状況と高齢婦人科疾患に関する調査をメインに検討した。

「介護施設における高齢婦人科疾患に関するアンケート調査」の実施

介護保険制度見直し状況（保険料：平成15年、制度：平成17年）の情報収集

産婦人科医のための介護保険マニュアルの作成準備

### 2．性教育指導セミナー

（1）第26回性教育指導セミナーの開催

本年度は、第26回セミナーを本部担当にて開催した。前年度より田邊常務理事を委員長とする実行委員会を組織（古賀・北村・秋元各委員、佐々木副会長、永井常務理事、安達・赤松・清水各幹事）し、事前準備に万全を期すると共に、当日の運営において

は、出席する本会役員全員の協力を得て開催した。

また、5会場で同時進行による分科会の講師・司会者（会員よりの講師応募者から各々選任）と書記（担当委員・幹事より選任）、総合討論座長を交えての打合せを昼食休憩時に行い、模擬聴講生（実際の聴講対象者を一般人より募集）への対応や質疑事項、各分科会の結果の総合討論への反映方法等についての最終確認も行い、遺漏なき運営と本セミナーの意義高揚に努めた。

日 時：平成15年7月6日(日) 10:00~16:00

場 所：全共連ビル会議室・4F大会議室他（東京都千代田区）

出席者：204名

プログラム：以下のとおり

---

メインテーマ：“指導者のスキルアップめざして”

開会の辞	日本産婦人科医会副会長	佐々木	繁
会長挨拶	日本産婦人科医会会長	坂元	正一
実行委員長挨拶	日本産婦人科医会常務理事	田邊	清男
<b>特別講演</b> ：メディアと性	[座長]日本産婦人科医会副会長	佐々木	繁
	演者：フリージャーナリスト	宮	淑子
<b>ランチョンセミナー</b> ：日本産婦人科医会作成“性教育講演用スライド”の説明	[座長]日本産婦人科医会常務理事	永井	宏
	(代理：)	田邊	清男
	演者：日本産婦人科医会女性保健委員会委員	秋元	義弘
<b>分科会</b> ：効果的な性教育とは？ - 参加者と考える -			
「小学校低学年」編	(書記：日本産婦人科医会幹事	安達	知子)
	司会：青森労災病院産婦人科部長	片桐	清一
	講師：ペリネイト母と子のサテライトクリニック院長	上村	茂仁
「小学校高学年」編	(書記：日本産婦人科医会幹事	清水	康史)
	司会：愛媛県立医療技術短期大学教授	北川	博之
	講師：西口クリニック婦人科院長	野口	まゆみ
「中学生」編	(書記：日本産婦人科医会女性保健委員会委員	野崎	雅裕)
	司会：元・根本産婦人科副院長	尾澤	彰宣
	講師：弘前レディースクリニックはすお院長	蓮尾	豊
「高校生」編	(書記：日本産婦人科医会女性保健委員会委員	相良	洋子)
	司会：東邦大学医療短期大学客員教授	木村	好秀
	講師：国立米子病院産婦人科	藤井	亜希子
「父母」編	(書記：日本産婦人科医会幹事	赤松	達也)
	司会：東クリニック院長	東	哲徳
	講師：安藤ゆきこレディースクリニック院長	安藤	由起子
<b>総合討論</b>	[座長]日本産婦人科医会女性保健委員会委員長	古賀	詔子
	[座長]日本産婦人科医会女性保健委員会委員	北村	邦夫
閉会の辞	日本産婦人科医会理事	成田	收

---

(2) 「第26回性教育指導セミナー集録」発刊

セミナーの概要を医会報(8月号)に掲載した他、医学の世界社発行の雑誌「産婦人科の世界」に掲載(各演者寄稿)した。また、同雑誌の別冊を集録として作成し、各支部への配布と、希望者には有料頒布(2,200円/冊)することとした。

(3) 第26回性教育指導セミナー・アンケートの実施(小冊子作成と配布)

本セミナーのあり方を考える上でも、今回のセミナーは分科会形式や模擬聴講生(小学生~高校生・父母)の招致の他、忌憚なき声を得やすい本部開催等を考慮して、講師・講演内容や本セミナーについてのアンケート調査を全出席者を対象に実施した。

調査結果は小冊子にまとめ、今後の検討資料として活用することはもちろん、参考資料として各支部、講師・司会者の他、関連諸団体にも配布した。

(4) 「性教育指導セミナー」の名称変更

本セミナーへの支援(後援、他)環境をより整備する一環として、本セミナーを「第10回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会」との名称にし、平成16年度から施行することが第3回理事会で認められた。

このため、直ちに次年度以降のセミナー開催担当支部に伝達し、名称の統一を図った。

(5) 第27回性教育指導セミナー開催支援

平成16年度の第27回セミナーの円滑な諸準備を図るため、開催担当(開催立候補申請:平成14年度、理事会承認:同年度第3回)の秋田県支部(村田支部長、第27回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会実行委員会委員長:後藤副支部長、他)との密接な連携のもと、プログラム構成や会員への参加促進(医会報案内等)についての支援を以下のとおり図った。

日 時:平成16年8月1日(日) 9:00~15:30

場 所:秋田ビューホテル・4F「飛翔」の間(秋田県秋田市)

共催団体:秋田県教育庁、秋田県医師会等をはじめとする関連諸団体を予定

案 内:平成16年医会報にて第1報(3月)、第2報(4月)・第3報(6月)予定  
平成15年度「第57回通常総会」にてPR

平成16年度「支部月例連絡」(4月)予定

プログラム案:以下のとおり(年度内に整ったプログラム構成案)

---

メインテーマ:“今求められる性教育とは?…性教育担当者の役割分担と相互理解…”

**教育講演1**:小学校での性教育の可能性

座長:日本産婦人科医会東北ブロック長 永井 宏

演者:中野区立北原小学校教諭 庄子晶子

**教育講演2**:思春期の性:性の自己決定能力を育てる健康教育

~今、なぜ、ピアカウンセリングなのか~

座長:日本産婦人科医会常務理事 田邊清男

演者:自治医科大学看護短期大学教授 高村寿子

**特別講演**:学校における性教育について

座長:第27回性教育指導セミナー全国大会会長・秋田県支部長 村田純治

演者:文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育専門官 大竹輝臣

**ランチオンセミナー**:若者たちの性が危ない~今期待される性教育とは~

座長:秋田大学医学部産科婦人科学教授 田中俊誠

演者：日本家族計画協会クリニック所長・日本産婦人科医会女性保健委員会委員	北村邦夫
<b>シンポジウム</b> ：性教育に対する考え方と取り組み（中学生を中心に）	
座長：日本産婦人科医会女性保健委員会委員長	古賀詔子
座長：日本産婦人科医会青森県支部副支部長	蓮尾豊
中学校の教育現場から	男鹿市立北中学校教諭 後藤秀司
PTAの立場から	本荘市立尾崎小学校PTA 能勢智子
マスコミの立場から	秋田魁新報編集局長 小笠原直樹
行政の立場から	秋田県教育庁保健体育課指導主事 猿橋薫
産婦人科医の立場から	日本産婦人科医会秋田県支部副支部長 後藤薫
指定発言 脳科学と認知行動科学に基づく新性教育論	千葉大学名誉教授 武田敏

(6) 第28回性教育指導セミナーへの支援

福岡県支部よりセミナー開催担当立候補申請を受けて、平成17年度の第28回セミナーの開催を福岡県支部に担当を依頼することとなった（理事会承認：第4回）。このため、本年度内に行える具体的な支援として、開催日等の予定を本会の諸会議日程に盛り込むこととした。

開催日：平成17年7月10日(日)を予定

場所：九州大学医学部講堂（福岡市）を予定

3. 日本医師会「学校における性教育4科連携モデル事業（仮称）」への支援

日医「学校保健委員会」の検討結果から、産婦人科、皮膚科、整形外科、精神科の4科を専門校医としたモデル事業が、日医の補助により今年度から開始された。このため、モデル事業の対象地域（平成15年度は千葉市、大阪府、厚木市の3地区）所管の千葉県、神奈川県、大阪府支部の各支部長に協力・支援方を要請（後記「依頼状」参照）し、関係各方面との協調を図った。

なお、年度末時点での当該（千葉県・神奈川県・大阪府）支部の報告から、同事業の実施概要は以下のとおりとなる。

(1) 貴支部の協力・支援事項と結果

関係部会等への支部役員参加、関連資料の提供、協力申出文書提出、  
会員への呼び掛け・協力会員の確保、学校・保健所等の連携の端緒作り

(2) 同事業の疑問点や改善点

開始早々で未提起（手探り状態）、小～高校の取り組みの違い、  
文書提出先の対応不明

(3) 半年間を振り返ってのご感想

医師はボランティア、少ない予算、協力要請への態勢作り、  
関心を示す医師の少なさ

(4) 貴支部における次年度の具体的な協力・支援事項は？

側面支援、各地の性教育実態把握、協力態勢確立に向けた講習会開催、  
関係機関との連携の場作り

---

日産婦医会発第12号  
平成15年 8月12日

日本産婦人科医会千葉県支部長 北原敬市 殿  
日本産婦人科医会神奈川県支部長 長田久文 殿  
日本産婦人科医会大阪府支部長 西野英男 殿

社団法人日本産婦人科医会  
会 長 坂元正一  
常務理事 田邊清男

#### 学校における性教育4科連携モデル事業（仮称）について

拝啓 平素より日本産婦人科医会の事業にご協力頂き感謝致しております。

さて、去る8月3日の支部長会に於てすでにご案内の如く、日本医師会学校保健委員会では、産婦人科、皮膚科、整形外科、精神科の4科が専門校医として、学校保健に参加する方向で検討されております。結論的には、日本医師会の補助によりモデル事業が開始されることになり、今年度は千葉市、大阪府、厚木市の3地区におきまして、産婦人科医が学校における性教育を行うことになりました。その結果に基づいて、次年度以降は文部科学省からの補助により、専門校医制度が拡大されることが予定されております。

医会本部と致しましては、本事業に関しましては当然ながら出来る限りご協力させて頂きます。つきましては、3支部の支部長先生におかれましても強力な指導力を発揮して頂き、郡市産婦人科医会と密接な連絡を取ること勿論、日本医師会各県支部と十分な打合せのもと他の3科と共同歩調を取りつつ、今年度のモデル事業を是非成功させて頂きたく希望致しております。次年度以降の文科省からの補助も、すべて今回のモデル事業の成否にかかっているといっても過言ではありません。専門校医としての産婦人科の義務はもっと広いものと思料致しますが、初期のテーマが「性教育」と定められた以上、第一歩の成功が評価の原点になるかと思われるからです。

今後とも医会の事業にご協力賜りますと共に、本モデル事業につきましては、何卒、宜しくお願い申し上げます。

敬具

---

#### 4. 「全国支部女性保健担当者連絡会」開催の準備

全国支部担当者連絡会開催に向けた準備の継続を図った。

平成14年度の「第1回女性保健と介護に関する検討会」（出席支部：21支部中20支部）を単に拡大するのみではなく、全国の担当者が一同に会する場を活かす構成と内容、また、最も適した時期を選ぶべく鋭意検討を重ねた結果、小委員会事業と介護保険制度の見直し等の進捗状況を見極めてから、実際に開催時期の選定を行うこととした。

5. 性教育講演用資料（1セット：スライド、解説用冊子、スライド収録CD-ROM）の見直し  
平成14年3月に原版（CD-ROMはデータ訂正は不可の画像形式）が完成し、同年6月に複製・印刷の上、各支部に配布した性教育講演用資料の収録データの更新も兼ねての見直し作業を開始した。

本資料は、性教育講演等に利用している会員等の声と、第25回と第26回の性教育指導セミナーにおける同資料を利用した講演内容をもとに、誤植等の訂正はもとより、データ更新のための最新データの収集と見直し対象となるスライドの選定、並びにデータ訂正を行う際の問題点（スライド形式の統一や著作権、データ改編可能形式でのCD化、CD-ROMの使い勝手等々）の抽出を行った。ほぼ年度内に作業は終了し、見直し結果による資料への反映（訂正等）は来年度事業として行うこととした。

6. ホルモン剤（低用量OC他）への対応

1999年6月16日に認可された低用量OCやホルモン剤への正しい理解と普及を目的に、産婦人科医療へのイメージアップも兼ねた社会的な啓発を継続的に行っている。

（1）サイト「カラダの中から美しく！ Female Health」の運営

本会監修サイト（体験談の紹介、副効用のアピール、産婦人科のイメージ向上などを掲載／開設：平成12年4月／平成16年3月31日現在のアクセス数45,909,583件）の運営を継続した（アドレス：<http://www.fe-health.net>）。

アクセス者への対応：協賛の日本シェーリング(株)が本会監修の小冊子“Lady's Note”を無料提供している。

サイト運営・管理：担当の(株)電通関西支社内に“fe-health.net実行委員会”（本会担当役員が委員）を設置し、医学的知見による最新情報の提供や利用状況、質問事項等に対応しつつ、随時サイトの更新を行っている。なお、次年度は婦人科がんについて追加することとなった。

（2）低用量OCなどホルモン剤服用（者）に関する問題への対応

平成13年7月に、米国国立衛生研究所（NIH）がエストロゲンとプロゲステロンの併用によるHRTは、ベネフィット以上のリスクがあるとの判断から臨床試験（WHI）を中止したとの発表以来、医会報平成13年8月号や本会ホームページへの「急告」掲載、さらに同年9月2日付けの日産婦学会、日本更年期医学会と本会による関連学会三者統一見解をホームページ上で発表し、最新の医学情報に基づく社会的な啓発と会員への周知徹底を図っており、本年度の対応は以下のとおりである。

ホルモン補充療法（HRT）における使用上の注意の改訂への対応

厚労省“医薬品・医療用具等安全性情報No.197”（平成16年1月）の「1. 卵胞ホルモン製剤の長期投与と安全性について」で、HRTにおける使用上の注意が改訂された。しかし、本邦でのHRTへはほとんど影響はないと言えようが、医会報と本会ホームページを利用して会員への注意喚起（使用上の注意の遵守）を図ることとした。

前述サイトのアクセス者からの意見・質問事項への対応

“fe-health.net実行委員会”にて、適宜対応を図った。

会員、その他各方面からの問い合わせ（疑問点や問題点など）への対応

関連学会・各部の協力を得て、医会報や本会のホームページ等で対応した。

（3）啓発用冊子の普及・継続

ハンドバックに収納できて携行しながらでも正しい知識の提供をもとに社会的な啓発

を図れる冊子（関係各位の協力を得て発刊）2冊の普及（無料提供）・継続を図った。

“Lady's Note”/企画・発行：日本シェーリング(株)、監修：坂元正一（本会会長）  
ライフサイクルによって起こるホルモンの変化と女性特有の疾患関係を掲載。

“LOVE”(健全な家族計画のために)/企画・発行：森永乳業(株)、科研製薬(株)/  
監修：坂元正一（本会会長）/学術指導：清川 尚・田邊清男（本会常務理事）  
主として産後の家族計画教育を、産婦人科医療への啓発も兼ねて簡潔に掲載。

#### 7. 患者と医師とを結ぶ小冊子シリーズの発刊・普及・活用

女性特有の疾患を、Q&A方式などで患者にわかりやすく解説した小冊子シリーズを発刊している。既刊5冊（～）の普及・活用に向けた検討の他、新刊1冊（）を発刊し、会員の利用に供した（全会員に直送）

また、前述のHRTとの関連で、ホルモン剤使用についての記載事項を補完する意味合いから、前年度よりとの小冊子には“医師の裁量で慎重に使うように”とのメモを入れて対応しているが、本年度もこれを継続した。

「ホルモン補充療法のすすめ」（平成11年3月刊）

「骨粗しょう症に気をつけて」（平成12年3月刊）

「わたしのピルノート」（平成14年1月刊）

「赤ちゃんがほしいあなたと彼へ」（平成14年4月刊）

「こうすればよくなる排尿のトラブルや性交痛の悩み」（平成15年3月刊）

「すこやかな月経のために」（平成16年3月刊）

#### 8. 介護保険制度への対応

平成12年4月の介護保険制度施行以来、介護における産婦人科医の役割を求める検討を以下のとおり継続している。

(1) 経緯：産婦人科医のアプローチポイントの抽出（平成12年度）

産婦人科の介護保険制度における役割、専門性を活かした分野、会員の日常診療での関与方策の検討。

介護保険制度と産婦人科医に関する提案（平成13年度）

産婦人科の専門性を活かした健常時の予防対策奨励と啓発、介護施設への往診・治療費等における介護保険制度内での医療保険利用の働きかけ。

(2) 対応：「介護に関する調査」（平成13年度）

会員の現状把握を目的に調査を実施し、集計結果を各支部に配布した。

「介護施設における高齢婦人科疾患に関するアンケート」（平成15年度）

婦人科の専門性を介護施設でも活用できる分野開拓の一環として、入所者の高齢婦人科疾患に関する調査を実施し、調査結果を協力施設（全国866の介護関連施設）と各支部に配布した。

本年度からの介護保険料の見直し、平成17年からの介護保険制度自体の見直し状況の把握に努めた。

「産婦人科医のための介護保険マニュアル」（仮称）作成準備

前述の対応の集大成ともなる会員のためのマニュアル作成を次年度に行うべく、その準備を開始した。

## 9. 調査事業

- (1) 「介護施設における高齢婦人科疾患に関するアンケート結果」(平成16年3月発刊)  
介護保健施設で求められる産婦人科の専門性探求を図る一環として、各支部の協力(平成15年8月:調査対象施設の推薦依頼)を得て実施(平成15年9月:推薦866施設)した。調査結果(回答数449施設・回答率51.8%)は、部内にて今後の検討資料とした他、本調査協力関係者各位への参考資料として協力施設、各支部に配布した。  
なお、設問で設定できない記述事項を、本結果では可能な限り原文掲載したため、介護保健施設における実態(入所者の性衝動や疾患への対処等々)がノンフィクションとして垣間見えるものとなった。このことは、単に介護関係のみならず、性教育や医療対策、社会保険、がん対策、医療安全管理対策等々の関係各部でも参考になるものと確信している。
- (2) 「女性専門外来に関するアンケート調査」(仮称)の立案と実施準備  
平成16年度に事業を実施すべく、調査の趣旨、設問、調査スケジュール、調査対象とその把握について検討の上、調査の立案を行った。  
立案事項は、関連各部との連携・協調した事業運営を図るため、勤務医部(女性医師の実態把握の見地からの調査を企画)等よりの意見聴取の上、調査内容の推敲を図り、新年度早々に実施できるように準備を整えた。

## 10. 関連諸団体との連絡提携

厚生労働省はもとより、関連諸団体との連絡・協調を密にし、円滑な事業運営に努めた。

厚生労働省:「生涯を通じた女性の健康支援事業」(平成8年4月1日より実施)

「健やか親子21」(平成13年度より10年間の実施予定)

文部科学省:学校保健への産婦人科医参画の働きかけ(継続)

日本医師会:「学校保健委員会」委員(新家副会長)活動への協力・支援

「学校における性教育4科連携モデル事業」への支援

日本産科婦人科学会・日本更年期医学会:WHI中間報告における協調した対応

健康情報広報センター:中学校保健体育教師向けの性教育に関する教本作成支援

## 11. 委員会

予防医学・介護に関する委員会を4回開催した。

[第1回]平成15年6月18日 日本産婦人科医会・会議室

出席者:古賀委員長 他14名

- (1)平成15年度事業計画の推進:新規事業他  
(2)小委員会設置( :小委員長、Ad:アドバイザー、[ ]:担当幹事)  
思春期・成熟期: 北村・秋元・山本・古賀、Ad:成田、[安達]  
更年期: 相良・水沼・進士・野崎・山本・古賀、[赤松]  
介護保険: 松本・進士・古賀、Ad:加藤、[清水]  
(3)介護施設での高齢婦人科疾患に関する調査:調査スケジュール、対象施設の選出  
(4)第26回性教育指導セミナー準備:開催スケジュール、各種必要書面の検討  
(5)第27回セミナー:開催日(平成16年8月1日秋田市/秋田ビューホテル)了承  
(6)第28回セミナー:福岡県支部よりの開催立候補申請を了承  
(7)セミナーの名称検討:来年度より“全国大会”の追加を了承



( 8 ) 女性外来に関するアンケート：担当小委員会（成熟期・更年期）を選定

[ 第 2 回 ] 平成15年10月23日 日本産婦人科医会・会議室

出席者：古賀委員長 他16名

ゲスト：秋田県支部 後藤 薫副支部長（セミナー実行委員長）

清水 靖セミナー事務局担当（秋田大学産科婦人科教室）

佐藤滋子氏（自由企画・出版）

- ( 1 ) 介護施設における高齢婦人科疾患に関するアンケート調査：中間集計
- ( 2 ) 第27回（2004年度）性教育指導セミナー：準備状況確認・プログラム修正
- ( 3 ) 小冊子「すこやかな月経のために」：A・B 2 案の初校案検討
- ( 4 ) 第26回性教育指導セミナー・アンケート結果：内容・配布先の検討
- ( 5 ) 思春期・成熟期小委事業：性教育講演用スライド見直しと担当者選出（北村委員）
- ( 6 ) 更年期小委事業：生活習慣病マニュアル作成提案
- ( 7 ) HRT：ミリオンスタディ等の発表に関する対応
- ( 8 ) 女性専門外来の実態調査：検討方策

[ 第 3 回 ] 平成15年11月28日 ホテル八重洲龍名館（M2F「桜」の間）

出席者：古賀委員長 他20名

ゲスト：秋田県支部 後藤薫副支部長（セミナー実行委員長）

大山則昭セミナー事務局長（秋田県支部常任理事）

佐藤滋子氏（自由企画・出版）

- ( 1 ) 第27回性教育指導セミナー全国大会：プログラム・会場等の詳細検討
- ( 2 ) 小冊子「すこやかな月経のために」作成：構成・スケジュールの確認
- ( 3 ) 女性専門外来に関するアンケート：調査主旨と事前周知の工夫対策
- ( 4 ) 小委員会事業
  - 思春期・成熟期小委：性教育講演用スライドの見直し継続
  - 更年期小委：「生活習慣病マニュアル」作成進捗状況
  - 介護保険小委：高齢婦人の疾病調査結果、介護保険マニュアルの作成検討
- ( 5 ) 本年度事業の推進：計画事業の進行状況を確認
- ( 6 ) 来年度事業計画：具体案提出と各小委員会よりの要望事項

[ 第 4 回 ] 平成16年 3 月 5 日 レストラン「アンシャンテ」（第一ホテル東京・2F）

出席者：古賀委員長 他17名

ゲスト：佐藤滋子氏（自由企画・出版）

- ( 1 ) 「第27回性教育指導セミナー」（H16.8.1・秋田市）：一部座長変更の検討
- ( 2 ) 女性専門外来に関するアンケート：アンケート内容の推敲、対象施設の推薦方策
- ( 3 ) 小委員会事業
  - 思春期・成熟期小委：性教育講演用スライド見直し訂正稿の検討
  - 更年期小委：「生活習慣病マニュアル」（仮称）作成関連資料のまとめ
  - 介護保険小委：介護マニュアルの骨子、発刊予定（平成16年秋）確認
- ( 4 ) 来年度小冊子テーマ：「産婦人科デビュー」関連での概略・方向性の検討